

## 普及現地情報



発信年月日：令和5年(2023年)6月21日

所属名：大津・南部農産普及課

番号：A23006

部門分類：160 果樹

発信者名：村井、山本、和田

## ナシ園でのグリーンでスマートな栽培体系への転換に向けて

琵琶湖もりやまフルーツランドグリーン転換協議会（以下、協議会という）は、令和4年度に設立され、グリーンでスマートなナシ作りに向けた取り組みを行っており、今年度も天敵製剤とロボット草刈機を用いた技術実証が始まりました。

守山市北部のもりやまフルーツランドのナシ園では、令和2年に策定した産地計画で、化学合成農薬の使用回数削減や作業時間を削減できる技術導入を掲げています。その実現に向け、協議会において、天敵製剤（ミヤコバンカー）を活用した殺虫剤の使用回数削減と、ロボット草刈機を活用した除草作業時間削減とを組み合わせたグリーンでスマートな栽培体系の技術実証を行ってきました。

当課は、昨年度の実証から判明した課題について、農研機構植物防疫研究部門や天敵製剤およびロボット草刈機のメーカーと協議を重ねてきました。その結果、天敵製剤では、効果を安定させる「ゼロ放飼（天敵製剤利用開始時にハダニ類の発生が極めて少ない状態）」に向けた防除暦の改良と、天敵製剤の使用を2度に分ける試みを行っています。またロボット草刈機では、園地の均平の他、当課からメーカーに要望した「機体のトラブル時にメールで知らせる機能」を搭載した機体を用いて、実証を行っています。

当課では、産地と協力してハダニ類の発生程度の調査や経営試算などを行い、産地で活用しやすい技術として広く県内に普及推進を図るべく、引き続き支援していきます。



ナシ樹に設置した天敵製剤



ナシ園を除草する通信機能付きロボット草刈機